

桑名市生涯学習推進計画(案)に係るパブリックコメント実施結果

「桑名市生涯学習推進計画(案)」に対して貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。いただいたご意見とそれに対する市の考え方を公表いたします。

番号	項目、ページ	ご意見	市の考え方
1	全体的に	この計画(案)を見ても、今後どうしていくのか分かりにくい。誰もが分かる計画にすべきです。	本計画には、8年後の市民の姿を具体的に描き、それを計画の目標とするとともに(P24)、その目標に向けた行政の取組み目標、推進のための主要施策、主な取組みを掲げたところです(P29～P45)。また、現在作成中の計画の概要版では、誰にもわかりやすいものとなるよう努めます。
2	全体的に	市民に、多くの生涯学習の場所を提供し、内容を充実させるのが、行政の仕事です。ここでは、生涯学習の認知の低さを認め、市民に責任を押し付け、お金のかからない、行政にとって都合のいい内容と場所の縮小にお墨付きを与える計画になっている。	本計画の目的は、市民一人ひとりが自己を高め、互いに学び合うことによって豊かで充実した人生を送ることができるようにすること、そしてその成果が社会に生かされ、コミュニティが活性化する「生涯学習社会」を実現することにあります。その目的のため、市民目標を掲げ、行政の取組み目標を定め、施策・事業を進めます。
3	全体的に	構成について、概要・背景・方向性・施策・推進となっているが、分かりやすくするために方向性(施策の中に方向性が書かれている。)をなくし簡潔にすべきです。そして主要な取組みの一覧表を作り、推進・管理を分かりやすくすべきです。	本計画は、生涯学習を推進するための行政における基本的な考え方や方向性を体系的に整理し、施策を総合的・効果的に進めることを目的に策定するものです。計画の構成については、その内容の一つひとつが、今回の計画の必要性や、なぜこのような計画になったのか、何をどうやって進めていくのか、ということ述べており、いずれも計画にとってなくてはならない構成要素であると考えます。また、計画全体の施策を体系図として、26ページ・27ページの2ページの見開きとし、主な取組みまでを掲載したところです。
4	第1章 1 計画策定の趣旨 P2～P3	生涯学習の必要性・重要性・定義がわかりづらい。(生涯学習は自発的・主体的なものなのか。知識基盤社会を支えているのか。今まで、生涯学習を支援してきた内容は、教育基本法の理念で責任は何処にあると考えているのか。)	教育基本法は、生涯学習の理念として、国民一人ひとりの生涯にわたる学習と、その成果を適切に生かせる社会の実現を求めています。この理念にのっとり、生涯学習の必要性のいくつかの側面として、「個人の学ぶ楽しみから、学びを通じた人間関係づくりや社会参加、新たな地域課題への対応など、幅広く知識基盤社会を支える重要な役割を担っている」ことを記述しています。なお、現行の計画の内容については、市のホームページに掲載されていますので、そちらをご覧ください。

5	第2章 1 国・三重 県の動向 P6	自前主義からネットワーク型行政の推進は、責任の転嫁ではないか。	ご意見の記述部分は、本計画策定の背景として、「第6期中央教育審議会 生涯学習分科会における議論の整理」を国の動向の一つとして紹介したものです。
6	第2章 1 国・三重 県の動向 P7	4つの目標、3つの役割というが、具体的な施設ごとの提供内容を明記すべきではないか。	ご意見の記述部分は、本計画策定の背景として、「第3次生涯学習振興基本計画～みえまなび絆プラン～」を三重県の動向の一つとして紹介したものです。
7	第2章 3 市民の生 涯学習に関 する意識 P11～P19	「アンケート」について アンケートの内容が分かるように、アンケート用紙を添付して下さい。 アンケートは、市民向け、施設利用者向け、団体アンケートがあるようだが、グラフ・表にはそれを明記して下さい。 団体アンケートは、団体名を明らかにして下さい。 内容で、認知度はどうして必要なのか明記して下さい。 施設の一覧と利用時間・費用をつけて下さい。(公民館、図書館、文化施設、スポーツ施設は充分なのか。) 成果で、自分の為に活かしている人はいるが、地域や社会に活かす活動をしている市民は少ないというが、何故、地域や社会に活かすことが必要なのか。(受益者負担と言う名目で参加者はお金を払っている。)	<ul style="list-style-type: none"> ・本計画の中で取り上げたアンケート等の調査結果の出典は、市のホームページに公表されている昨年(平成27年)に実施した市民アンケート及び団体ヒアリングの調査報告書です。ホームページには、調査用紙も掲載されていますので、そちらをご覧ください。 ・グラフ及び表が、市民向けアンケート、団体アンケートのいずれのものであるかは、11ページの冒頭に記載したとおりです。 ・ヒアリング団体の内訳は、公民館講座 3、公民館サークル 8、子育て支援活動団体 2、ボランティア活動団体 2、スポーツ団体運営支援団体 2となっています。 ・認知度は、市民の生涯学習活動の状況を知る第一歩だと考えます。活動がより活発になり広がれば、生涯学習の認知度も高まってくると考えます。 ・各施設の利用料金は、市のホームページの施設カテゴリーをご覧ください。 ・生涯学習の成果を、地域や社会での活動に生かしている市民が増えることで、成果が地域に還元され、住みよいまちづくりにつながっていくと考えます。
8	第2章 4 今後の取 組みへの課 題 P20	新たな生涯学習施設として何を考えているのか。	市民アンケート調査結果によると、市民が生涯学習を推進・充実させていくために利用・参加できる「場」として、最も多かったのが「市が保有する公共施設の未利用時間帯などの利用を促す」で33.6%あり、次いで「地域に密着した場所を利用する」が29.8%でした。その設問に「地域に密着した場所」の例として挙げているのが、寺院・神社、地区集会所、商店街の空き店舗でした。 この結果だけにとらわれるわけではありませんが、このような結果も参考にしながら、生涯学習活動の場の確保に取り組みます。

9	第3章 1 基本理念 と推進の方向性 P22	「基本理念」について。どうして「一人ひとりが学びの主角～学びを通してつながり、高め合い、未来を創る～」になったのか分からない。特に何故、一人ひとりが学びの主角なのか。説明されたい。	総合計画の生涯学習分野での「10年後の目指す姿」は、第一に、市民の誰もが、生涯にわたって自由に学習機会を選択して学び、その成果を活かすことができ、この学びが地域に還元され、住みよいまちづくりがおこなわれているまちにあります。そのことから、このようなまちづくりを進める主体は、市民一人ひとりの学びにあるとの思いをこの基本理念に込めました。
10	第3章 2 計画の目標と取組み P24	市民目標として、どうしてこの4つが出てきたのか。	市民が、家庭や学校、地域や職場など場所を問わず、ライフステージに応じて自分に必要な学びや関心のあるテーマについて自発的に学び、学びを通して人や地域とつながり、高め合っていく——そのための段階を、学びの機会づくり、学びの場づくり、身近な生かし、地域やまちづくりでの生かしの4つに分け、短くわかりやすい言葉で表そうとしたものです。
11	第3章 4 計画の重点方針 P28	4つの課題、4つの市民目標、4つの重点方針の関連性はどうか。	まず、4つの「市民目標」は、計画が目指す8年後の市民の姿であり、いわば計画の最終目標です。その「市民目標」を実現するために、行政が何をなすべきかを掲げたものが「行政の取組み目標」で、この2つの目標のための施策や取組みが施策の体系を構成しています。 一方、4つの課題は、これまで進めてきた生涯学習推進計画を振り返っての分析や、市民アンケート調査などの結果から、今後の取組みへの課題を4つにまとめたものです。この4つの課題の解決に取り組むための方針を明確にしておくために定めたものが4つの「重点方針」です。 このように、本計画では、基本理念のもと、目標とする市民の姿を実現するための施策全体の展開を行う一方、重点方針により、課題の解決を強く意識して取り組んでいきます。本計画は、この2面を調和させて推進します。
12	第4章 1～5 P30～P45	主な取組みの一覧表を作成してください(番号3と同じ)	計画全体の施策を体系図として、26ページ・27ページの2ページの見開きとし、主な取組みまでを掲載したところです。

13	第5章 1 計画の推進 P48	社会教育委員の会議について、詳しく説明して下さい。誰が委員で、会議は何時何処で行われていて、公開なのかどうか。議事録はあるのか。今後の予定はどうなっているのか。	社会教育委員の職務については、同ページに注釈として記載しているとおりです。ご質問の点については、まず、委員は、文部科学省令に示された基準を参考に、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う方並びに学識経験のある方の中から委嘱しています。会議は、通常は年2回、市役所内の会議室で公開で開催し、議事録を作成しています。次回の開催は、平成28年8月31日です。
14	第5章 2 計画の進行管理 P49	進行管理するためには、ちゃんとした報告の形式が重要です。一覧表を作り、誰もが分かる内容にしてください。(番号3と同じ)	進行管理については、現行の計画においても、毎年の自己評価を取組みごとに行い、そのすべてを社会教育委員の会議でご審議いただいてその後の事業運営等に生かしています。本計画においても、そうした仕組みを踏襲するとともに、計画期間全体を通じて振り返りを行っていきます。